

令和6年度 第1回多治見市学校給食運営委員会 会議録

- 日時 令和6年8月28日（水） 13：00～14：15
- 場所 多治見市食育センター 2階研修室
- 委員出欠席 出席委員／12名
柴田委員、城處委員、若尾委員、前川委員、林委員、加藤委員、
横山委員、若尾委員、水田委員、田宮委員、小栗委員、菅原委員
事務局出席者／7名
教育長、副教育長、食育推進課長、食育推進課職員4名
欠席委員／1名 國生委員

○会議次第

1. 開会のことば
2. 教育長あいさつ
3. 自己紹介
4. 議事

議第1号 多治見市学校給食運営委員会会長及び副会長の選出について

認第1号 令和5年度多治見市学校給食会計決算の認定について

議第2号 令和6年度多治見市学校給食会計監査委員の選出について

報第1号 物価高騰にともなう学校給食費の不足額の市費負担継続について

その他

- ・学校給食費の改定（値上げ）及び無償化について

○会議内容（要点） 以下のとおり

（食育推進課長）

ただいまから令和6年度第1回多治見市学校給食運営委員会を開会する。

（教育長）

この学校給食運営委員会の目的は主に2つある。市とは独立した会計（私会計）である「多治見市学校給食会計」が適切に執行されているかの確認と、学識経験者や保護者代表などを委員とし、多方面から学校給食の在り方について忌憚なくご意見を伺うものである。

現在、市の学校給食は、財政面や物資調達等の面で厳しい状況下にあるが、これまで国産や旬の原料を使用した「手作り給食」にこだわりを持って献立を考えてきた。費用も手間もかかるが、食育を意識し子どもたちの成長に寄与するため、今までの体制を継続していくべく、給食費の値上げについて検討されたい。また、本日議題「その他」に挙げている、令和8年度からの中学生給食費無償化の方針案についても、活発な議論が出されることを期待する。

(食育推進課長)

今年度第1回目の会議となるので、各委員から名簿順に自己紹介を願う。

(委員)

順次、自己紹介を行う。

(食育推進課長)

これより、議事に入る。今回の議事録の署名委員として、若尾和生委員及び菅原康木委員を指名させていただく。後日会議録への署名をお願いする。

また、多治見市情報公開条例第23条の規定により、本運営委員会の会議は公開とさせていただく。

それでは、この委員会の成立について、事務局担当から報告する。

(事務局)

本日の会議は、全委員数13名、出席委員12名で過半数に達している。よって、多治見市学校給食運営委員会条例第6条第2項の規定により、委員会が成立したことを報告する。

(食育推進課長)

それでは、議案に移る。議第1号、多治見市学校給食運営委員会会長及び副会長の選出について、いかが取り計らったらよいか。

(委員)

事務局に一任の声

(事務局)

会長に多治見市議会厚生環境教育常任委員長の若尾敏之委員、副会長に多治見歯科医師会代表の林孝徳委員を推薦したいが、いかがか。

(委員)

異議なし。

(食育推進課長)

異議なしと認めて、会長を若尾委員、副会長を林委員に決定する。会長が選出されたので、議第2号議案以降は会長に議事進行を願う。会長、副会長は席をご移動いただきたい。

(会長)

それでは、これから議事を進める。

認第1号、令和5年度多治見市学校給食会計決算の認定について、事務局より説明を願う。

(事務局)

- ・P.1の決算書について説明。
- ・P.2～P.6の資料について説明。

(会長)

ただいま、決算の内容について、事務局から説明があった。令和5年度監査委員の横山委員から監査結果について報告を願う。

(令和5年度監査委員)

- ・監査結果の報告

(会長)

ただいまの決算認定並びに監査報告に対して、意見はないか。

(委員)

過年度の滞納について、わかる範囲で滞納理由を教えてください。

(事務局)

理由は様々だが、生活困窮者や市外転出等が主な理由である。過年度滞納分は学校から食育推進課で対応するよう変更した。学校側で対応が困難な滞納者については、市の方で随時対応を行っている。なお、給食費の収納率は、市税や保険料等と比べて高い。

また一部の在校生の過年度滞納分は、教材費等と併せて学校側で引き続き対応いただくことで収納率を上げるよう努めている。今後も今までどおりの対応を継続していく。

(委員)

給食費において、納付についての「念書」対応はあるか。

(事務局)

念書はないが、学校給食の提供は届出（申出）により行っている。

(委員)

学校側は、学校給食費と併せて修学旅行費や学習費等の徴収も行っていると思うが、充当の優先順位はあるか。

(教育長)

優先順位を付けるべきものではないが、保護者の意向等の諸事情により、学校給食費への充当が後になってしまう場合がある。

(委員)

給食費滞納金の時効はあるか。

(事務局)

滞納者側が主張しない限り時効は成立しないものとする場合もあるが、滞納経過期間に関わらず、適宜滞納整理は行っていく。また分納誓約等で時効が中断する場合もあるが、収納率を少しでも上げるよう引き続き対応していく。

(委員)

廃食油売払収入は予算と収入額に大きな差があるが、理由はあるか。

(事務局)

特に理由はない。実際の収入額を決算額として計上している。

(会長)

それでは、お諮りする。認第1号、令和5年度多治見市学校給食会計決算の認定について、原案のとおり認定してよろしいか。

(委員)

異議なし。

(会長)

異議なしと認める。よって、認第1号は原案のとおり認定された。

(会長)

次に、議第2号、令和6年度多治見市学校給食会計監査委員の選出について、事務局から説明願う。

(事務局)

先例にならない、監査委員として委員の中から2人選任いただきたい。

(会長)

ただいまの会計監査委員の選出について、いかが取り計らったらよろしいか。

(委員)

事務局一任

(事務局)

事務局案として、根本小学校の横山委員と、多治見市PTA連合会副会長の水田委員を推薦したい。

(委員)

異議なし。

(会長)

異議なしと認める。

横山委員と、水田委員が令和6年度多治見市学校給食会計監査委員に選出された。

(会長)

次に、報第1号、物価高騰にともなう学校給食費不足額の市費負担の継続について、事務局から説明を願う。

(事務局)

・P.7資料について説明。

(会長)

ただいまの内容について、質問・意見はないか。

(会長)

続いて、その他について、事務局からご報告を願う。

(事務局)

「学校給食費の改定（値上げ）及び無償化」について説明。

(会長)

ただいまの説明について、質問・意見はないか。

(委員)

中学生無償化の経緯を伺いたい。

(事務局)

当初は市長のマニフェストとして第2子以降の給食費無償化を掲げていたが、市民への幅広い経済的支援を行うべく、塾やジュニアクラブ等で経済的負担が大きい時期である中学生を対象とした。

(委員)

幅広い経済的支援を目的とするならば、幼稚園から小学生、小学生から中学生など段階的な実施が良いのでは。

(事務局)

給食費に係る直近の国の調査では、財政面の課題が多くを占めている。段階的無償化はご指摘のとおりだが、小学生からの無償化は財政的に厳しいのが現状である。また、経済的負担の増加という点をより重視した結果、中学生を対象にする方針案に至った。これまでも方針案を決めるにあたり様々な意見があったが、今後も多方面から引き続きご意見をいただきたい。

(委員)

給食費を払うよりも弁当を持参の方が安く済む場合もあると考えるが、給食の喫食を選択制にしたらいかがか。

(事務局)

以前の給食は子どもたちの栄養補給を目的としていたが、近年の給食は、加えて食育を主な目的としている。給食は単なる栄養補給ではなく、給食を通じて、子どもたち自身が健やかに成長していくための教育の一環となっている。給食を通じて「食育」という教育を受けてもらうため、食物アレルギーなど特段の事情を除き、給食の選択制は考えていない。

(委員)

保育園の給食は幼稚園よりも安く済んでいるという認識がある。幼稚園との違いについて伺いたい。

(事務局)

主食と副食に対する概念の違いがある。保育園は自園調理の概念のもと、3歳未満児については給食費を徴収していなかったり、所得が低い世帯等については副食代を国・県・市で負担するが、主食代については保護者負担としている。

(委員)

令和8年度から無償化予定とのことだが、令和7年度から実施する議論はあったか。

(教育長)

令和7年4月から、第2子以降の未満児保育料の無償化、18歳までの医療費無償化を実施予定であり、実施に向け財源確保や調整を行っているところ。そこに給食費無償化が含まれる場合、財政状況の圧迫が懸念されるため、令和7年度の実施は困難と判断した。

(委員)

無償化の前に値上げをする場合、保護者等へはどのような説明を行うか。

(教育長)

値上げについては、継続的に物価高騰分を一般会計から負担するのではなく、物価高騰の状況に対応した金額（費用）を、適宜見直すことが不可欠である。無償化については、第2子以降の無償化をマニフェストとしていたが、多方面から意見を伺う中で、経済的負担が増えるのは中学生であるという意見が多かったことや、第一子のみ家庭も幅広く支援するためである。

(委員)

無償化には約1億8,000万円が必要と見込んでいるが、どのように財源確保するのか。

(事務局)

現在、市では事務事業を見直す行政改革を行っている。各課事業の歳出見直しを行う中で、財源調整を図る。また、ふるさと納税などで税収を増やす工夫を研究し、歳入の面からも財源確保を図る。

(教育長)

ある事業を取りやめることにより財源を確保するのではなく、必要な財源を確保しつつ適正に財源調整を行う。また近年は、企業誘致や開発等による固定資産税の効果、ふるさと納税の増加など、安定的に税収が上がってきている。歳入出のバランスを鑑みながら、令和8年度からの無償化を実施する方針。

(委員)

財源確保のために現在の市民サービスが低下しないよう配慮しつつ、無償化を進めていただければ、保護者としてはありがたい。

(会長)

以上で本日の議題はすべて終了した。せっかくの機会なのでご質問等ある方はご発言願う。

(委員)

多治見市と人口規模が類似した県内の自治体で、無償化の動きはあるか。

(事務局)

県内は把握していないが、記者発表後、可児市等の近隣自治体から無償化に関する問い合わせがあった。県外では、愛知県安城市や豊田市などがすでに無償化を実施している。また、無償化の対象は自治体によって様々であるが、大手企業が所属するなど財源が豊かな自治体は、無償化が進んでいると認識している。無償化を実施している自治体の中には、令和5年度までの国の臨時交付金を活用し限定的に無償化している自治体もある。

(委員)

学校給食の食品ロスはどのようなか。

(事務局)

学校ごとで集計しており、残量にはばらつきがある。残量の多い学校は、集計内容を情報提供し、栄養教諭や管理栄養士の食育を通じて、残量を減らすよう努めている。また最近、給食をおかわりする子どもたちが減ってきていることも、残量が増えている原因のひとつであると考えている。

(委員)

以前出席した学校保健委員会で、共栄小学校の食品ロスが多いと伺った。子どもの好き嫌いは、親の好き嫌いに大きく影響を受ける場合があると考えるが、食品ロス削減のために親子で食育を受けさせてはどうか。

(委員長)

せっかくの機会なので、学校長からも意見を伺いたい。

(委員(校長))

家庭教育学級の中で、保護者と給食の試食を交え、栄養士の講話を聞きながら食育を行っている。食育のために、栄養士に訪問いただく機会も多いため、感謝している。

残量が多い原因は好き嫌いだけでなく、食べるペースが遅い児童もいる場合、時間内に食べきれないというケースもあると感じる。

(委員(校長))

小学校同様、栄養士を講師に招き、保護者対象の食育講座を実施する機会を設けている。

残量については、体育の授業の後など、運動後に暑さ等で食欲が落ちてしまう場合に多く出ていると感じる。

また、朝ごはんをしっかり取る生徒が多くなってきており、給食をたくさん食べたいという生徒が以前よりも減ってきているのも原因のひとつではないか。

(委員)

ちなみに、食育センターの見学は可能か。

(事務局)

可能。市内小学校3年生を対象とした施設見学が多くを占めるが、保護者を対象とした試食会も行っている。また、親子を対象とした夏休みのクッキング講座など、食育の講座は幅広く実施している。

(事務局)

共栄小学校の食品ロスの課題においては、学校側と食育推進課とで調整を行い、今年から栄養教諭を講師として食育の授業を行う機会を設けた。保護者からも、食育の機会を増やしていただけたらという意見もいただいている。

(委員)

残飯はどのように処理されているか。

(事務局)

三の倉の堆肥化センターで堆肥化され、地元農家や花壇の肥料として再利用されている。

施設見学の際に、「堆肥になるから給食を残しても良い」という誤った認識を子どもたちに与えないよう、配慮している。

(委員)

中学校無償化により、小学校滞納分の収納率低下に作用しないか。

(事務局)

無償化による収納率への影響は少ないと考えるが、無償化以降も滞納の対応に努める。

(委員)

今後、幼稚園や小学校も無償化していくのか。

(教育長)

政治的な判断が必要であり、現時点では未定。国や都道府県で無償化の支援策があれば、実現できる可能性はあると考える。また、全国教育長会の協議会でも無償化に関する要望を国へ提出するなど、全国的には、無償化に向けて少しずつ動向が活発になってきていると感じる。

(委員)

子どもが多い世帯には、第2子以降無償化の方が良かった。

(教育長)

すでに第2子以降で優遇される制度は保育料などで設けているが、給食費無償化の対象については今後も意見を伺っていく。

(会長)

値上げと無償化については今後のパブリックコメントでも意見を伺いたい。

(会長)

これをもって令和6年度第1回多治見市学校給食運営委員会を終了する。

上記会議の顛末を記録し、相違ないことを証明するためここに署名する。

委員 若尾和生

委員 菅原康木